錦城高校新聞

題字　井口　文章

再刊　第２４８号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2017

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：「オールライト」観劇
スキーしおり係とＰＲ係に話を聞く
二面：新生徒会の意気込み聴く座談会
生徒百人にインタビュー

# 自分でやると決めたから「オールライト！」

## １・２年生視聴覚教室

11月30日(木)ルネこだいらで視聴覚教室が開かれ、一・二年生は、青年劇場による演劇「オールライト」を観劇した。コミカルな物語に生徒は惹きつけられていた。公演後、主人公「ユキ」を演じた片平貴緑さんと演出家で元錦城生(28回生)の藤井ごうさんに話を聞いた。

（編集室共同取材）

公演記念に錦城へ送ってくれた出演者全員のサインと主役の片平さん

### マイホームロードムービー

昭和の香り漂う民家で、父と２人暮らしをしていたユキ。東京に単身赴任する父を見送り、大好きなレコードを聴きながら、ドキドキの一人暮らしが始まる……かと思いきや、家出してきた幼馴染のエリカが転がり込んでくる。勝手に居候を宣言して、お泊り会気分ではしゃぐエリカと途方に暮れるユキ。そこに、道端で倒れていた記憶喪失のお婆ちゃん、そしてお婆ちゃんが連れてきた照明写真機の中で寝ていたサラリーマンやスーパーの屋上でたたずんでいた妊婦など「ちょっと変な大人たち」も加わり、ユキの家では奇妙な共同生活が送られていく。

### 「演劇は生もの」

ユキ役の片平貴緑さんに舞台を終えての感想を聞くと「客席と舞台が一体となっていて楽しかった」とにっこり。青年劇場は芸術鑑賞教室などで全国各地を回っているそうで、公演をした高校によって雰囲気が違うという。「演劇は生もので観客の雰囲気によって演技も変わります」と片平さん。以前には観客がキャラクターを受け入れず、ユキがエリカを平手打ちした場面で『ひどい』という声が聞こえてきたこともあったそうだ。「それも全部その場で受け入れる。なんでエリカにあんなことしたんだろう、ってユキをもっと追い込んで、その後の演技で生かせるようにします」と話した。

役作りについては、ユキがエアーギターを弾くことを不思議に思っていたそうだ。また、片平さんはユキとエリカの本音でぶつかり合える、心の底から語れるような関係に憧れているという。「毎回、エリカが最後に戻って来た場面でエリカが小声でただいまって言うんです。自分とユキが一体となって、言葉にできない気持ちがこみ上げます」と語る。物語のその後について聞いてみると「定期的に皆集まるんだろうな。ユキが東京行くときとか」と思いをはせた。最後には「錦城生、劇面白かった？わたしは楽しかった！オールライト！！！」。

興味を持って来てくれた
錦城生２人と片平さん

### 演出家は元錦城生

今回の作品の演出家、藤井ごうさんは元錦城生だという。第58回毎日芸術賞千田是也賞を受賞するなど、演出家・劇作家として活躍している。『オールライト』を通じて伝えたかったことを聞くと「逆にあなたたちはどんなことを感じましたか」と笑顔で尋ねられた。「伝わることは、見る人の持ってるものによって変わってくると思う。いろんな人にいろんな角度で見て欲しい」と話す。

藤井さんは男子校時代の生徒だったため、今の錦城に女子がいるのが新鮮だという。梶原政利先生の「自分でやら

「皆さんはどんなことを感じましたか？」と藤井さん

# 生徒が企画！三年生運動会

玉入れを楽しむ３年生の女子たち

11月29日(水)のＬＨＲに三年生全クラスで校庭を使い運動会が行われた。競技はアンケートで決定した玉入れと全員リレーの２つだ。

男子ハンデつき玉入れは、玉が新聞紙で作られているので軽く、カゴに入れるのに苦戦したが、競技中終始楽しそうな声が響いていた。結果は一位Ｉ組、二位Ｇ組、三位Ｊ組となった。

次の全員リレーでは文系と理系の２つにレースを分け、それぞれ対戦した。どちらも白熱し、応援も盛り上がる。担任の先生が走っているクラスもあり、注目を集めていた。久し振りに走った人が多く、走り終わった後は皆疲れた顔をしていた。順位は一位Ｋ組、二位Ｆ組、三位Ｇ組となった。

今回の運動会を企画した岩瀬梨紗さん(３Ｈ)によると、きっかけは男女共には楽しめるレクを考えており、リレーをやりたいという話を聞いたことだという。アイデアを出しながらクラスの人と準備をしてきたそうだ。岩瀬さんは「文句もあったけどなんだかんだ楽しんでもらえたので良かったです」と嬉しそうに話した。最後のレクを楽しんだ３年生。この勢いで受験まで頑張ってほしい。（柑）

# 室楽、地元のコンサートに参加

12月10日(日)にガスミュージアムで行われたクリスマスコンサートｉｎガスミュージアムに室内楽部が参加した。有志の部員１４人で約６０人の観客が来場した。

小平の子供たちとも共演した室内楽部

「20日のクリコンにもぜひ来てね！」と部長の山本さん

今回は指揮者なしでの演奏のため、指揮者の代わりとなるバイオリンのトップの人を見るようにクセをつけたという。部長の山本真奈未さん(２Ｈ)は「１番心配していた３曲目では１、２曲目よりもお客さんの反応があってよかった」と話した。（英）

# バスケ部から選抜選考会出場

「選ばれたのはチームのおかげです」と清家くん

１１月２３日(木)に行われた支部対抗選抜第４支部代表選手選考会に男子バスケットボール部の清家直音くん(２Ｃ)が出場することになった。ここで代表選手に選ばれると２月１１日(日)に開催される第２０回支部対抗選抜バスケットボール大会で第４支部代表としてプレーできる。清家くんは「正直びっくりしています。まさか選ばれるとは思っていませんでした」と心境を明かした。もし支部代表に選ばれたら「支部の大会で得たものをチームに持ち帰ってこれからの練習に活かしたいです」と話した。

最後に「選ばれたのもチームで協力して新人戦を勝ち進んだことが大きいので、とても感謝しています」とチームの全員にお礼を伝えた。（紅）

## ●吹奏楽部　Ｘmas CONCERT

１２月１９日(火)ルネこだいら大ホール

開場：１７：３０　開演：１８：００

**今年は吹部からのプレゼント企画があるかも！？**

# クリスマスコンサート

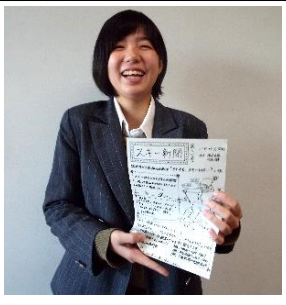
## ●室内楽部　クリスマスコンサート

１２月２０日(水)ルネこだいら中ホール

開場：１８：００　開演：１８：３０

**サンタに会える！？**

# 修学旅行の準備着々と進む
## 「普段の学校生活でできないことを」


新聞を手にスキーへの思いを語る村本さん

### スキーＰＲ係チーフ

スキーのＰＲについてチーフの村本夏望さん(２Ａ)に話を聞いた。ＰＲ係はスキー新聞を発行している。基本は２人１組で１枚の新聞を担当している。他にもインストラクターの方に贈るＴシャツのデザインの募集などをしたそうだ。

村本さんは「スキーが上達したかどうかではなく、とにかく楽しい思い出と作ってもらいたいです。せっかく宿泊して多くの時間を友達と過ごすので、普段の学校生活でできないことをして欲しいです」と思いを語る。

今後はさらに新聞の発行を続けて、他のスキーの係や部活との合同企画も構想しているという。村本さんは「３年生と先生方にはアンケートに協力してもらったし、１年生には来年の修学旅行を楽しみにしてもらいたいので、２年生全員で楽しめるスキーになれば良いと思っています」と締めくくった。

### しおり係チーフ

スキーのしおり係のチーフである古内菜那子さん(２Ｈ)は「それぞれが担当しているページは完成しました」と現在の製作状況を話す。

しおり係は主にスキーのしおりの自由ページを作っている。自由ページは１人２つ程度企画案を出し合い、全員に担当を割り振って制作したという。自由ページには例えば先生や先輩へのアンケートの結果が載っているページや、錦城と蔵王のつながりなどの２年生に蔵王を知ってもらうページ、心理チャートやすごろくなどのみんなで楽しめる遊びのページがあるそうだ。

しおりの工夫した点を古内さんは「スキーに早く行きたいと思うような楽しいしおりになるようにしました」と語った。

しおりは３学期に２年生の手元に届く予定だ。古内さんは「みんなで楽しみましょう」と呼びかけた。（紅）

## むらさき草

テストも終わり、年末へ向かい加速度をつける日々、小学６年生の頃演じた「モモと時間泥棒」が思い出される。この劇はミヒャエル・エンデの児童文学『モモ』が原作だ▼主人公モモはおだやかな時間の流れる町で、のんびりと暮らしていた。しかしある日、町にあらわれた時間貯蓄銀行の外交員を名乗る灰色の男達つまり「時間泥棒」に、町の人々の時間を奪われていってしまう。時間を奪われた人々は、ムダを嫌い、友達と語らう楽しさも、ペットの可愛さも忘れてしまう。モモは時間と友達を取り戻すため、時間泥棒との戦いにのり出す▼原作は三部構成からなり、第一部に時間泥棒は登場しない。モモと友達が遊ぶ様子や、町の人の喧嘩など日常が描かれる▼小学生のときはこの部分を「不要な部分」と思っていたが、今読み返すとはっと気付く。長々と描かれたからこそ、奪われた後にその日常のありがたさを噛みしめることができる▼吉田兼好の随筆『徒然草』55段。「造作は、ようなき所を作りたる、見るも面白く、万の用にも立ちてよしとぞ、人の定め合ひ侍りし」。つまり家には特に用もない空間を作っておくと良いそうだ▼錦城高校の新校舎を作る時、この言葉を意識して各階にコモンスペースを設けたと聞く。一見必要のなさそうなその場所で、今日もお弁当を食べる生徒の笑い声が、時には自習をする生徒のペン先のノートを滑る音が響いている。意味の無いように見えるスペースで交わされる会話や、過ごした時間が大切な思い出になったりもする▼兼好法師も走っていたかもしれない師走の日々。とはいえ忙しいからと「ムダ」に思えるものを切り捨て、せかせかと過ごすのではもったいない。忙しいからこそ、朝の冷気の中で吐息の白さに微笑んだり、澄んだ夜空に遠く輝く月を眺めたり。そんな心の余裕を持ちたい。（加）

# まずは土台作りから、今後に期待

## 新生徒会座談会開催

### 今期目指すのは『積極的解決』

11月20日(月)、新聞委員会編集部は新生徒会役員5人に集まってもらい、座談会を開催した。また編集部は、生徒100人に新生徒会についてのインタビューを行った。課題はまだ数多くあるが、一つ一つ真摯に取り組んでくれることを期待したい。（編集部共同取材）

新生徒会メンバーで今後の方針を話し合う
和やかな雰囲気で進んだ座談会。これからの生徒会活動に注目だ

**語る意気込み、今後の課題**

生徒会会長の村本夏望さん(2A)は前生徒会の活動を「一人に仕事を任せきりにしてしまうこともあって、本当に大変だった」と振り返った上で「きちんと仕事を割り振るなどしてみんなで活動できるようにしていきたい」と意気込みを話した。ただ、中央委員会がどんな機関なのかあまり認知されていないと感じているそう。ちゃんと生徒の皆さんには理解してもらえるようにしたいと厳しい表情で語る。生徒会副会長の松本千冬くん(1H)は「笑顔を大切に、全力で頑張ります」と理想を述べた。

錦城祭実行委員長の近藤惟さん(1B)は「錦城祭実行委員長だから仕方なく中央委員会にいるというのではなく、自分は実行委員長であり中央委員なのだという自覚を持ち、できることはやっていきたい」と熱く語ってくれた。

**監査どうする？錦城祭どうなる？**

監査委員会、錦城祭実行委員会は今後どのように変わるのだろうか。

小林俊介くん(1A)は「生徒が納得して予算を受け取れるよう、一つ一つ部を回り、部の代表と直接会って意見を吸収していくことも考えています」と話す。今後の抱負を『生徒の下敷きとしての責務を全うしたい』と語る小嶋祐輝くん(2A)は「僕はきっと下敷きなんです。生徒からの要求を吟味した上で実際の予算などに反映させる。それが僕の仕事ではないでしょうか」と笑った。

また近藤さんは「やっぱり文化祭専用の意見箱を設置したい」と話す。委員会側がより効率よく動けるようにシステムを変えても、それがクラスの作業にとっても良いとは限らない。委員たちはクラスごとの準備になかなか関わることができないため、意見箱を通してクラスに携わる人がどう思っているかを集約していきたいそうだ。

**今後の具体的な動き**

「基本は毎週月曜日の定例会の際に意見箱はチェックし、先生などの判断が必要なものかそうでないかを分けながら対応していきます」と村本さん。今期生徒会の次なる大きな仕事としては三送会の際の教室装飾などの準備などが挙げられる。そうした不定期の活動と普段の活動の兼ね合いもあるが、どちらか一方に偏らないようにバランスを取りながら取り組んでいくそうだ。投書などにどう対応していくかは昨日12月12日(火)に臨時で開かれた定例会にて本格的に話し合いが始まり、具体的な動きがあるのは3学期に入ってからとなる。

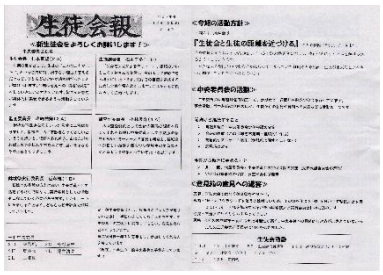
＊＊＊

今回の選挙では、新役員5名中4名がそれまで中央委員会として生徒会の活動に携わっておらず、前生徒会から続投したのは会長の村本さんのみ。

左で取り上げた100人インタビューにもある通り、『当選者の演説が抽象的だった』など、今回の新生徒会に対しては生徒の厳しい声も多い。それについて村本さんは「皆初めてだったから、具体的な提言というより自分はこうしたい！という理想像をみせてくれたのだと思う。やりたいことを全部発揮したいという意志があったから、ああいう演説になったんじゃないかな」と強いまなざしで語ってくれた。

「新しい生徒会にしたい」と口を揃える5人。「新しいメンバーになった事で外からの声が反映されやすいはずです」と村本さんは期待を込めて言う。

5人は「今までは生徒、生徒会の双方が受け身だったけれど、自分たちから積極的に解決に向け動く、『積極的解決』を目指していきたい」とも語った。今後の生徒会の動向に注目だ。



本日発行の新生徒会報第１弾！

## 生徒100人インタビュー

### 生徒会に望むのは『有言実行』

錦城生は今回の選挙についてどう感じたのか、新生徒会に何を望んでいるのか。新聞委員編集部は、錦城生1・2年の100人に直接インタビューして調査した。そのうち今回取り上げるのは、①立会演説会を聞いた感想や印象、②今回の選挙結果についてどう思うか、③新生徒会に望むこと、の3つだ。

**生徒にとって立会演説会は**

立会演説会の感想を尋ねると、「熱意があった」など好意的な意見もある一方、「もっと内容のある演説をしてほしかった」「面白かったけど少しずれていた」といった厳しい指摘もある。演説をきちんと聞いて内容で投票したか生徒に聞くと、きちんと聞いていたと言う人が大多数だったものの、演説内容を聞かずに投票したという回答もあった。

また選挙活動への意見として「立会演説会での質疑応答時間がほしい」「放送と合わせて2回の演説は少ない」という声もあった。今後の選挙管理委員会の動きに注目だ。「立会演説会だけでなく皆が集まった時のマナーを見直すべき」と今後への課題も見つかった。

**一票の重さを考えて**

選挙結果について印象を聞くと、インパクトで決まったという声が多かった。中には「本当に信頼という面での当選なのか疑問。ノリによる当選の感じが拭えない」や「真面目な人の意見が通りにくい空気」という指摘もあって、「真面目な人だとつまんないからユーモアがある人が当選するのかも」と考える人もいた。また、結果について「経験者の方が強いと思っていたから驚いた」という意見がある一方で「想定内だった」という声も聞かれた。

「にぎやかで楽しそう。学校全体もそうなりそう」、「何かを変えそう」という期待する声もあれば、「真面目にやってくれるか不安」と言う声も。しかし「生徒が選んだ結果だし…」という意見にあるように、今回は生徒の1票1票が反映された結果だ。調査して「どうせ自分の一票じゃ変わらないと適当に投票するんじゃなくて、自分の一票の重さを考えて投票してほしい」という意見が印象的だった。

**責任を持って活動して**

生徒が新生徒会に望むことで多かったのは、有言実行や改革だったが「期待していない」という厳しい声も。生徒会の実情が見えにくいという生徒の感じ方も改めて明らかになり、「何をしているのか生徒に分かるように」という意見もよく聞かれた。『見える化』を掲げ『生徒会報の月一回の発行を目指す』として活動を始めた前生徒会は、この目標を達成することができなかったものの、掲示板や意見箱を活用し生徒の意見を積極的に取り入れてきた。今年の生徒会は、どのようにして生徒に近い生徒会を作っていくのだろうか。

「1人1人がしっかりと自分の立場を理解して責任を持って活動してほしい」という声もあったが、信任と決選のどちらであっても、生徒の思いを託されて役員に選ばれた事実をきちんと受け止めた上で新役員には頑張ってもらいたい。私たち自身も、自分たちが選んだ生徒会の活動を見届けていきたい。

### インタビューの中の主な意見

**①立会演説会の感想**
- 演説が面白く、楽しかった。
- やる気があって良かった。
- 公約をしっかり掲げてほしい。

**②選挙結果について**
- ノリや盛り上がりで決まったのではないか。
- 真面目にやってくれるか不安。

**③新生徒会に望むこと**
- 言ったからには実行してほしい。
- 何をしているのかわかりやすくしてほしい。

## 他校と交流　高めあう新聞作り

11月18日(土)、私立三輪田学園高校で東京都高等学校新聞セミナーが行われた。東京都高等学校新聞コンクールの審査委員長で錦城高校元教諭の松井巌さんから新聞作りのコツについての講義を受けた。それを踏まえて、6つに分かれた班ごとに校舎や行事、男子校・女子校・中高一貫校の違いなど、各班様々なテーマでお互いを取材し合った。その後それぞれの班の代表者がまとめを発表しあった。

真剣に講演を聞く参加者

セミナー終了後、昭和第一学園高校の増子晴香さん(1年)は「とても充実した時間でした」と振り返った。2回目の参加だったという吉祥女子高校の石川理沙さん(1年)は今回のセミナーを通して「みんな意欲的で刺激を受けたので、従来のやり方にとらわれずに意欲的に活動していきたい」と話した。

また、上記のコンクールにおいて錦城高校新聞委員会は10年連続で東京都最優秀賞を受賞。委員長の田矢美桜奈さん(2A)は「これは仲間や先輩方、顧問の先生のおかげです。これからも錦城新聞をよろしくお願いします」と微笑んだ。（碧）

班ごとに発表を行う

## 歌い踊れや軽音ライブ！

１１月１８日(土)、音楽室にて軽音部秋ライブが行われた。１年生初ライブでもあったこのライブ。部屋いっぱいに生徒が集まり、後方で眺めていた先生もノリノリで楽しんでいた。

## 大会報告

女子ハンドボール部
▽11月26日(日)
第13回江戸川区秋期ハンドボールオープン大会
女子　優勝
選手賞　安里歩実さん(2L)

女子バスケットボール部
▽11月3日(金)～11月19日(日)
新人戦　三回戦進出

映画研究部
▽11月26日(日)
東京都高等学校総合文化祭
放送部門
ビデオメッセージ部門
3位　関東大会進出
ビデオドラマ部門　3位

## 生徒会動静

11.22～12.12

11月22日　HR委員会
11月27日　代議委員会
12月8日・12日　合唱祭実行委員会

## こだいら食い倒れ　小平ブランドめぐり

すっきり後味のいい餡をふんわり生地で包んだどら焼き

今回は一橋学園駅から約3分、どこか懐かしさを感じさせる商店街にある「菓子舗青柳」に行ってきました！10年前にお店を引き継いだ2代目当主の鈴木映さんが営んでいます。オープンな店構えで、店内には坂口健太郎さんなどの色紙が飾られていました。認定品は「ぶるべーどら焼き」(150円)と「こげらサブレ」(110円)の2つ！「ぶるべーどら焼き」は手に取るとずっしり重量感があり、餡にはふんだんに使われた生の小平産ブルーベリーが！たっぷりのこしあんとブルーベリーの酸味が合わさり、すっきりとした後味が味わえる商品です。鈴木さんによると、普通のどら焼きには使わない隠し味を入れて、ふっくらした生地に仕上げているそう。「こげらサブレ」は可愛いこげらの形を模ったサブレ！生地にはブルーベリーが混ぜ込んであります。「サブレに水分量の多いブルーベリーを使うのは難しいけれど粉末タイプを使うことでそれを可能にしました」と鈴木さん。北海道産バターを使い、さっくりとした歯ごたえとやさしい甘さが味わえます。この他にも「青柳」では国産の原材料にこだわった、昔ながらのお団子や練り切りが楽しめます！ぜひ足を運んでみてください♪　（泰）